

高知市

見え隠れする不穏描く 池田あかり展 油彩など17点



「想像を膨らませて、描きたいものを描いた」と語る池田あかり（高知市桜井町1丁目のギャラリーE）

土佐塾高校を卒業したばかりの池田あかり（高知市）の初個展「邂逅」が同市桜井町1丁目のコレンス内「ギャラリーE」で開かれている。油彩やアクリル画など小品を含む17点が並んでいる。2月6日まで。

2000年同市生まれ。土佐塾高で美術部などに所属しながら、同市内の画塾で絵画を学ぶ。昨秋の第71回県展洋画部門で入選。9月からは英国のロンドン芸術大学に進学する。

「芸術を本格的に学ぶ前に、未完成な自分を見せておきたくて」と個展開催の理由を語る池田。「私の絵を見た人が、今は忘れてしまった視点や記憶を思い出してくれたらうれしい」と考え、偶然に出合う意味の個展タイトルをつけた。

自身と同じく1990年代の女性を題材にした作品を多く並べた。表現したいテーマは温かさや優しさの中に見え隠れする不穏なもの。さまざまな展示作品は具象と抽象の間を行ったり来たり。自分のスタイルを模索しているかのよう。

暗く、重たい色調が好みという。抑圧された高校生を鋭く表現した絵もあるが、ケーキなどのスイーツにのみ込まれてしまう女子をイメージしたアクリル画は対照的にピンクを主体とした抽象的な作品。着眼点が光る。

「提案し、問い掛ける作品を作りたい」。池田は率直に未来を語る。ロンドンでいろいろな芸術分野を学び、確かな方向性を見いだせたら再び高知で個展を開く予定だ。

（西森征司）